

切りかえの弱さを補うための支援

〔具体的支援〕

〔具体的な状況〕

〔児童の姿〕

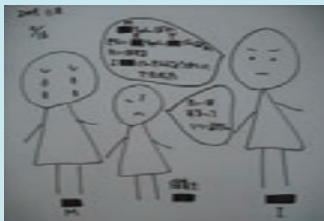
自分の思いが通らないと、友だちを押ししたり蹴ったり叩いたりする。

- ・その場から離し落ち着かせ本児の思いを聞く。
- ・テンションが上がり過ぎないようにコントロールする。

- ・コミック会話やどんなきもちカードで状況や気持ちを整理したり、相手に気持ちがあることをわかりやすく伝える。



どんなきもちカード⑩



コミック会話 ⑫

友だちに関わりたい気持ちはあるが関わり方がわからず、乱暴になったり、「ばか」などの暴言を言ったりする。

- ・こうすればいいという関わり方のモデルを示す。
- ・「叩きません」「ばかと言いません」というクラスルールをつくりクラス全体で約束に取り組む。

「ばか」などの不適切な言葉を使い続けるとパターン化されて言ってしまうという回路にはまってしまうので反応せず、ルール化します。



POINT

- ・興奮して泣きながら怒っていたのが治まり、自分の気持ちを話し始める。

衝動性が強く、自分の気持ちをコントロールしにくいこどもは、そのこどもにあった気持ちを切り替える支援が必要です。



POINT

- ・その場から離す(仕切りのあるところへ、深呼吸する、強く抱きしめる等)
- ・原因となったものを取り除く
- ・パニックが起こらないような工夫として事前にテンションが上がり過ぎないようにします。

- ・コミック会話で言ったことを書こうとすると嫌がり自分から「おしたらだめ」「〇〇ちゃんがないね、ごめんね」と言うようになる。

相手の感情を理解することが難しいこどもは、絵カードやコミック会話を使用することにより、状況や友だちの気持ちを視覚から感じることができます。保育士は常にメモ帳を持っておくと、適時視覚支援を入れることができ、こどもの気持ちが高ぶる前に対応することができます。



POINT

- ・保育士がモデルを示すことにより、「ばか」以外の言葉で相手に伝えようとしている。

約束事をクラスルールにしてそのこどもばかりが注意を受けることがないようにします。(自尊感情を育てます)



POINT